

	INF	REF	こども	電話	メール	中央計	行徳	BM	南行	信篤	平田	駅南	全館計
6月	1,061	741	763	180	9	2,754	1,087	50	217	194	101	951	5,354
累計	3,381	2,254	2,191	590	25	8,441	3,282	146	638	627	340	3,161	16,635

INF:インフォメーション・カウンタ REF:レファレンス・カウンタ BM:自動車図書館

📄 今月のレファレンス記録票から

分類

質問と内容

007.6 パソコンの OS を起動することとして「ブートストラップ (bootstrapping)」という言葉があるが、この語源について知りたい。

『最新パソコン・IT 用語事典 2011-'12』(技術評論社 2011)を確認したところ、p.976 「ブート・ストラップ (boot strap)」の項に「右足と左足のつまみ革を交互に引っばることで自身を浮かせ、湖に落ち込んだ自分と馬の脱出に成功したとの話(出典:『ほらふき男爵』)から、コンピュータがそれ自体で起動する様子を表すために使われている。」という記載あり。出典は『ほらふき男爵』とあるが、この資料には詳しい出典元の記載はなし。当館所蔵の『ほらふき男爵』『ほら男爵』を確認したところ「沼に入り込んでしまい、自分の髪を掴んで馬と共に抜け出した」という描写はあったが、ブーツ(靴)のつまみ革を引っ張る描写は確認できなかった。

336.5 「上記」「下記」を使用する場合、記書きが必要なのかどうか知りたい。

ビジネス文書に関する書籍を確認すると、「記書き」は「別記」とも表記されていることがわかった。『すぐ役立つ文書・書式大事典』(日本語文書研究会/著 法研 2010) p.27に、「別記がある場合には「下記の通り」「次のように」などの表現を使って、主文の中でふれておくこと。」と記載がある。同ページに記載されている「別記」の項には、「主文の中で書くとは煩雑になったり、確認のために要点などを再度まとめる場合につけるのが別記である。「記」以下の内容は、できるだけ箇条書きにする。」とある。

493.7 アスペルガー症候群の人が、絵・図像・写真などを見た時の情報処理能力について、記載のある本、及びその要点が知りたい。


『完全図解アスペルガー症候群』(講談社 2011) p.77には「文字や数字、図形で書かれた説明は非常によく理解する。目で見て知識をたくわえることが得意」と記載されている。

『天才と発達障害』(岡南/著 講談社 2010)では、「まず認知の中でも視覚が優れている人たちは、言葉を覚える以前に、視覚で直接ものを見て考えることができます。」(p.32)とある。「視覚優位の能力と映像思考」では、「視覚優位の能力は、一般に視覚記憶を生かし、土木・建築・デザイン・服飾(中略)そしてスポーツなどの世界に必要です。」「そして頭の中にある自前の映像で、動きやかかわり方を思考できるということは、既存の方法に頼ることができない仕事をする場合には、きわめて便利なものです。」と記載がある(p.35)。また、『「ギフテッド」天才の育て方』(杉山登志郎/[ほか]著 学研教育出版 2009)では、p.41から「視覚優位性の世界」と題して、視覚優位の特徴について記載がある。

933 「顔のひどい男が孤独に暮らしていて、心を通わせる相手は狼と大きな鳥だけ。そのうち、彼を快く思わない人間が彼らを滅ぼしにやってくる」という超短編の

タイトルと作者が知りたい。外国文学だと思う。

追加の情報で、「男の名前は“ねじ”か“ねじ男”だった気がする。大きな鳥の名前は“ブラック・ウィング”で間違いない」とのこと。Googleで“ねじ”“ブラックウィング”“鳥”“狼”“短編”などを入れて検索したところ、いくつかの個人ブログの書評が検索結果に上がった。これらによると、『笑い男』と内容が近いことがわかった。『笑い男』が収録されている『ナイン・ストーリーズ』（J.D.サリンジャー／著 野崎孝／訳 新潮社 1988）を確認したところ、男は「笑い男」と呼ばれており、ブラック・ウィングは狼の名前と、提供情報と差異はあったが、探していたのは『笑い男』で間違いないとのことだった。

 **G I V E U P !** ご存知の方はご教授下さい。

931 次の詩が載っている本を探している。『汝がいまだ偶然の子であり自然と運命の意のままにも押し流される已であるとしても落胆せずともよい。（中略）運命の姿の姿は、汝が格闘すべき天使であるがゆえに。エドワード・カーペンター』

『エドワード・カーペンター伝』（都築忠七／著 晶文社 1985）、『イギリス名詩選』平井正徳／編 岩波書店 1991）を確認したが該当する詩の掲載はなかった。

国立国会図書館デジタル化資料送信サービスで、エドワード・カーペンターが関係する資料（『カーペンター詩集』『天使の翼』『愛と死の戯曲』『吾が日吾が夢』『創造の芸術』等）を確認したが該当する詩の確認はできなかった。

追加情報が寄せられました(新・参考業務月報 2006年10月号掲載記事)

分類	質問と内容
I/C2	市川市八幡2丁目付近を「大芝原」と呼ぶのはなぜか。いつ頃からそう呼ばれているか。

2006年の調査では、『市川市の町名』『市川のまち 地名の由来』『江戸名所風俗図絵(2)』等には解説なし。『市川市史(2)』の大字・小字地図と『市川市字名集覧』の字の対照表により、「大芝原」は小字名だった事が判明した。

追加情報として、『私たちの市川 郷土読本』（茂手木綱二／著 市川毎日新聞社 1955）p.45「地名の由来(13) 大芝原(おおしばら)」の項に「普通の、原や、野には、小さい樹の林や、灌木が生えているものですが、この辺一帯は、開けた草原で、美しい野原でありました。そこで、他のひらけない野原の地名と、区別をつけるために「大芝原」と云う地名が生まれました。」と記載があることが分かった。

他にもこんな質問ありました(クイック・レファレンスから)

分類	質問	⇒ 回答、補足事項、蘊蓄など
C10/B1	横田冬彦氏の「死と葬礼についての覚書」を読みたい。『千葉県史のしおり』にあると聞いた。	⇒『千葉県史のしおり』とは、『千葉県の歴史』（千葉県史料研究財団/編集）の付録である。「死と葬礼についての覚書」は『千葉県の歴史 通史編近世2』（2008）にあり。
708	太平洋戦争、収容所に関する「我慢の芸術」についての本。	⇒Googleで「我慢の芸術」を検索すると、「The Art of Gaman」という言葉が検索結果に上がった。「The Art of Gaman」で資料検索したところ、『尊厳の芸術』（デルフィン・ヒラスナ/[編]著 NHK 出版 2013）が該当した。